

平成26年1月17日

一般社団法人 日本物流団体連合会

## 新型インフルエンザ（H5N1型）の臨床研究の追加募集に288名が対応

昨年12月、政府の行動計画に基づき、物流関係の指定公共機関等を対象として、新型インフルエンザ（H5N1型）のプレパンデミックワクチンの臨床研究の追加募集が行われ、物流連加盟団体・企業に属する288名の希望者が応募し、1月14日から第一回目の接種が始まりました。

この臨床研究の実施は、昨年4月に、新型インフルエンザ対策等特別措置法が施行され、新型インフルエンザの流行時に、指定公共機関である物流事業者が輸送の責務を負うことになったことなどに伴う対応の一環です。

政府は、新型インフルエンザの流行時に、特定接種を行うこととしており、特に、強毒性のH5N1型新型インフルエンザに対処するために、プレパンデミックワクチンの備蓄を行っています。臨床研究は、すでに製造販売承認の得られているこのワクチンについて、その有効性・安全性の研究に資するため接種例を増やして、より安全で効果的な接種に役立てようと思われるものです。

物流事業は社会の重要なインフラであり、強毒性の新型インフルエンザの流行時においても事業継続が求められるため、物流連は、そのような物流事業で働く人の安全性が確保されるよう、政府関係者に対し、事前の対応を求めてきています。また、希望者が臨床研究に参加することは、ワクチンの事前接種を受けるのと同様な効果を得られる意義もあると考えています。

このため、このような臨床研究の募集を会員に周知するとともに、昨年11月から行われた本年度第一回目の臨床研究では、川合会長をはじめ10人が参加しました。

今回の第二回目の募集についても積極的に周知してきたところ、4つの接種地区のうち、東京地区では197名、九州地区で53名、三重地区で20名、京都地区で18名、合計288名の応募があったものです。

臨床研究は、3週間以上の間隔をあけた二回の接種によって行われますが、東京地区では、国立病院機構東京医療センターで、1月14日、15日に第一回目の接種が行われました。第二回目の接種は、2月上旬に予定されています。そのほか九州地区では、3月上旬に第一回目の接種が予定されるなど、今後順次行われて行く予定です。

以上

(連絡先) TEL:03-3593-0139 担当:赤坂